

地域再生計画

1. 地域再生計画の名称

ニューシートンバイリ（乳・椎・豚・梅・梨）による農業観光活性化計画

2. 地域再生計画の作成主体の名称

高崎市

3. 地域再生計画の区域

高崎市の区域の一部（榛名地区）

4. 地域再生計画の目標

高崎市榛名地区は、広大な関東平野の扇の要に位置し、平野部と山岳部を結ぶ中間農山村地域である。群馬県では、西部地域にあって、北部は上毛三山のひとつである榛名山、そして水神・農耕信仰の地として関東一円から講を集めていた榛名神社を有している。さらに、南総里見八犬伝で有名な里見氏発祥の地であり、日本文化の基礎を築いた茶聖千利休太祖の地でもある。

榛名地区の中心を東西に烏川が流れ、川を挟んで肥沃な土地が広がっているため、古くより農耕が盛んであり、農業は当町の基幹産業となっている。特に梅の生産は、養蚕の衰退以降桑畑の代替作物として推奨され、この地に合った品種も見つかったため、400ha以上の作付面積で3,000t以上という東日本一の生産量を誇っている。この梅を初めとした梨・桃・プラム等の果樹や椎茸の生産、豚・牛（乳牛・肉牛）等の畜産が盛んで、榛名地区では、特産品である牛乳・椎茸・豚・梅・梨について、それぞれの文字をとって「ニューシートンバイリ」としてPRしている。国道406号沿いは別名「くだもの街道（フルーツ街道）」と呼ばれ、1年の内最も賑わうときには100軒以上の直売場が軒を並べる。

しかしながら、消費地への広告宣伝や特徴ある商品開発等が十分でないため、一大生産地であることの認知度は低く、また都心部から1時間20分ほどで来ることができるといったメリットも十分に生かし切れていない。このような状況から榛名産のブランド化もできず、価格等も低迷し、後継者不足に悩んでいる。したがって、ニューシートンバイリを始めとした豊かな農産物の情報発信を強化し、農業観光という型で観光客に提供するとともに、大消費地である首都圏に販路拡大していくことが重要であると考えられる。

このような中、榛名地区内では、地域の業者らが参加して地域興しやまちづくりを实践する「榛名まちづくりネット」という組織が平成9年度から立ち上がった。この団体が中心となって、農産品や観光宣伝のためのインフォメーションセンターとなる「まちの駅」（既存の施設を活用した地域の交流拠点）を榛名地区内の21カ所に設置し、これをネットワーク化する「榛名まちの駅プラネット計画」が現在進められて

いる。榛名地区では、このような住民による活動と共同し、「まちの駅プラネット」を活用した情報発信の強化に取り組む。

また、現代は情報化社会と呼ばれ、パソコンの普及と相まってインターネット上で様々な商品が取引されるようになってきているばかりでなく、携帯電話でも同様に情報を受発信することが可能になってきている。観光客等の「いつでもどこでも新鮮な情報を得たい」というニーズに対応するため、「まちの駅」のみならず、このようなモバイルITを活用したリアルタイムの農業観光情報の発信システムを構築していく。

このように、「まちの駅」のネットワークと携帯とモバイルITを活用した新しい型の情報発信により農業観光の活性化を図るとともに、榛名湖や榛名神社を始めとした観光資源を活用した誘客事業等と連携し、榛名地区の活性化を目指す。

【目標1】観光農業の促進によって、平成16年の観光入込客数（榛名湖・榛名神社等）96万人の約5%増加。

【目標2】梅や梨など果実の生産を16億円（平成15年）から3%増、加工農産物の売上高を3千万円（平成15年）から50%増。

5. 目標を達成するために行う事業

5-1. 全体の概要

農業大国としての高崎市榛名地区をアピールするために、榛名地区の特産品である乳・椎茸・豚・梅・梨の文字から取った「ニューシートンバイリ」をキャッチフレーズに、地域の交流拠点であり情報発信の場である「まちの駅」を基盤とした観光案内機能の強化、モバイルITを活用したリアルタイムな農産品や農業体験等の情報発信を行う。このような情報発信力の強化とブランド力の向上を官民パートナーシップ型で実施して農業大国「高崎市榛名地区」の農業観光の活性化をめざす。

また、「まちの駅」のネットワーク事業に参加する多くの事業者の異業種交流による農産加工品等の開発と、自然体験・林業体験・農業体験などを織り込んだグリーンツーリズムの推進を行い、さらに、高崎市の観光資源である榛名湖や榛名神社の誘客事業を展開する。

5-2. 法第4章の特別の措置を適用して行う事業

該当なし

5-3. その他の事業

5-3-1 基本方針に基づく支援措置 - 地域再生に資するNPO等の活動支援 モバイルITの活用による農業観光情報発信システムの構築

来訪者（観光客等）に新鮮で魅力的な情報提供を行うために、地域住民と観光客等の内外異なる視点で農業観光等に関する地域資源の発掘を行い、ワークショップ実施の中で、来訪者のニーズと合致する情報の整理を行う。

また、この情報をモバイルIT用のコンテンツとして加工（Web、データベース化）し、携帯電話を媒体とした情報発信システムを構築する。

「まちの駅」ネットワークを基盤とする観光案内機能の強化事業

携帯電話から農業観光情報を得るためにQRコードをプロットした案内マップを作成し、住民主導でネットワークを図っている「まちの駅」（榛名まちの駅プラネット）および地区内の農業観光関連施設等に配置することで、これら諸施設を窓口とした観光案内機能の強化を行う。

5 - 3 - 2 支援措置によらない独自事業

農業を中心とした異業種ネットワークによる活性化事業

榛名まちづくりネットの構成員には、農業生産者はもとより、自然体験推進団体・福祉団体・商店・飲食店等が所属している。これらのコラボレーションにより特徴ある農産加工品等の開発を行うとともに、自然体験・林業体験・農業体験などを織り込んだグリーンツーリズムの推進を行う。

観光地である榛名湖の誘客事業

日本で唯一湖で発生するホタルを鑑賞し、ゆうすげの花もめでるナイトウォーク事業を行うとともに、湖上花火大会や野外のトワイライトジャズコンサートを実施する。また、伊香保温泉と協力し、竹久夢二を題材とした観光客誘致事業を共同で行う。

関東の水の神様榛名神社誘客事業

春・秋の4日間、幽玄の杜音楽会と題して、榛名神社の神楽殿でクラシックとジャズのコンサートを実施。また、他地域や町外からの出店を募り、門前仲町として空き店舗の利活用を実施している。さらに、門前町のたたずまいに合わせ、板塀の街づくりによる周景事業を実施する。

農産品活用事業

梅を生かし、梅の花咲く時期に、県内外から観光客を呼ぶための事業として梅祭り・梅マラソンを実施。また、新たな梅を活かした料理を模索するため、梅料理コンテストも実施。さらに榛名の梅園の核となる観光梅林の設置促進事業を実施するとともに、梨の生産時期に合わせて梨祭りも開催する。

6 . 計画期間

平成17年10月～平成21年3月

7 . 目標の達成状況に係る評価に関する事項

計画終了後、4に掲げる目標の達成状況を調査・公表の上、高崎市において評価し、本事業が農業観光振興に十分活用されるよう事業の見直しを図る。

- 8 . 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項
該当なし